

2025年4月23日

— 明治安田 「家計」に関するアンケート調査を実施 —
96%の人が物価高を実感！特に値上がりを感じるのは「米」「野菜」！
GW予算は2年ぶりの増加！昨年比約5千円アップ！
貯蓄額は2年ぶりに増加、夫のおこづかいは現状をキープ！

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、「家計」に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

1. 物価高の影響（詳細は5～8ページ参照）

■96%の人が物価高の影響を実感！特に値上がりしたとを感じるのは「米」「野菜」！

- ・「物価高の影響を昨年以上に感じる」と回答した人は実に96.3%！さらに「最も影響のある費用」を聞くと、トップは「食費」（94.2%）。昨년을21.2p t 上回り、食料品の値上げが多くの家計に影響を与えている
- ・「特に値上がりした」と感じる食料品は、「米」（87.9%）、「野菜」（82.6%）の2品目で、突出して高い水準
- ・昨年と比べて世帯支出が「増えた」と回答した人は約5割（48.6%）。支出が増えた理由は「物価高騰により生活費が増えているため」が9割を超え（90.2%）、昨年（83.2%）よりもさらに物価高の影響が高まっている

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が「物価高の影響」について分析！

2. GWの予算と過ごし方（詳細は8～11ページ参照）

（1）GWの予算

■GW予算は昨年から約5千円アップ！理由は「旅行・外出」と「物価高」！

- ・今年のGW予算は34,935円と、2年ぶりに増加！昨年（29,677円）からは、5,258円アップ！
- ・GW予算を増やす理由の上位は、「旅行や外出を計画している」（48.4%）、「物価高の影響」（43.0%）。物価高の影響を受けながらも、旅行や外出にお金をかける人が増えており、全体の予算を引き上げているとみられる

（2）GWの過ごし方

■GWは「自宅で過ごす」人が約半数！旅行に出掛ける人は小幅に増加！

- ・今年のGWの過ごし方は、「自宅で過ごす」が約半数（46.7%）でトップ
- ・「国内旅行」（12.8%）、「海外旅行」（1.4%）ともに昨年から0.7p t 増となり、物価高・円安のなかでも、旅行に出掛ける人が小幅に増加

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が「GW」について分析！

3. 貯蓄と投資・NISAの利用（詳細は11～13ページ参照）

（1）貯蓄

■貯蓄額は2年ぶりに増加、昨年から260万円の大幅増！

- ・世帯の貯蓄額（預金、投資等）は2年ぶりに増加し、平均1,563万円。昨年（1,303万円）からは260万円増（20.0%増）と、大幅に増加！賃上げの影響に加え、物価高による買い控えの影響も？
- ・貯蓄目的のトップは「老後のため」（66.4%）、次いで「いざという時のため」（57.6%）と、多くの人が先行きが不透明なことに備えたいと回答。トランプ政権による景気や金融市場への不確実性の高まりも影響か？

（2）投資・NISAの利用

■「投資をしている人」は3割超！約24%の人がNISAを利用！

- ・「投資をしている」と回答した人は31.7%で、昨年（26.5%）より5.2p t増加。このうち75.8%の人がNISAを利用しており、全体では約24%の人がNISAを利用
- ・NISAの平均利用額は約300万円。2022年以降に利用し始めた人が45.8%と半数近くを占めており、NISAの利用を通じて投資をしている人が徐々に増加している状況

4. 夫のおこづかい（詳細は14ページ参照）

■夫のおこづかいは物価が上昇するなかで現状をキープ！

- ・夫のおこづかいは平均33,071円と、昨年の水準（33,039円）を何とかキープ。一方で、物価上昇の影響で「実質的なおこづかい」は減っていると言え、お父さんにとっては厳しい状況が続く

明治安田総合研究所 エコノミスト 木村 彩月が「貯蓄とおこづかい」について分析！

5. 世帯の収入（詳細は15～16ページ参照）

■「世帯収入が増えた」と回答した人は、3年連続上昇！

- ・昨年と比べて「世帯収入が増えた」と回答した人は25.3%で、3年連続の上昇。昨年（23.1%）より2.2p tアップ！（※調査実施は2025年3月）
- ・世帯収入が増えた理由は、「賃上げ等により給料があがったため」が約6割（62.3%）でトップ、昨年より6.1p t上昇！今後は、物価上昇が続くなかで、「賃上げが継続していくのか」「物価上昇を上回る賃上げとなるか」がポイント

明治安田総合研究所 エコノミスト 木村 彩月が「世帯の収入」について分析！

6. キャッシュレス決済（詳細は17ページ参照）

■「スマホ決済」が「現金」を逆転！キャッシュレス化が進展！

- ・最も多く利用する決済手段は「クレジットカード」（42.0%）。次いで「スマホ決済」（28.1%）、「現金」（25.6%）が続き、初めて「スマホ決済」が「現金」を上回る結果に！

対象者の属性

1. 調査対象

20～79歳の既婚男女

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2025 年 3 月 17 日(月)～ 3 月 24 日(月)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1, 620人

6. 回答者の内訳

(単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	135	135	135	135	135	135	810
女性	135	135	135	135	135	135	810
計	270	270	270	270	270	270	1,620

【 目 次 】

<u>1. 物価高の影響</u>	…	5 ～ 8 ページ
<u>2. GWの予算と過ごし方</u>	…	8 ～ 1 1 ページ
(1) GWの予算	…	8 ～ 1 0 ページ
(2) GWの過ごし方	…	1 0 ～ 1 1 ページ
<u>3. 貯蓄と投資・N I S Aの利用</u>	…	1 1 ～ 1 3 ページ
(1) 貯蓄	…	1 1 ～ 1 2 ページ
(2) 投資・N I S Aの利用	…	1 3 ページ
<u>4. 夫のおこづかい</u>	…	1 4 ページ
<u>5. 世帯の収入</u>	…	1 5 ～ 1 6 ページ
<u>6. キャッシュレス決済</u>	…	1 7 ページ

1. 物価高の影響

96%の人が物価高の影響を実感！特に値上がりしたと感じるのは「米」「野菜」！

○物価高による家計への影響について、昨年以上に感じるか聞いたところ、「大きく影響を感じる」と回答した人が46.6%、「影響を感じる」と回答した人が31.9%、「やや影響を感じる」と回答した人が17.8%と、合わせて実に96.3%が物価高の影響を感じています。

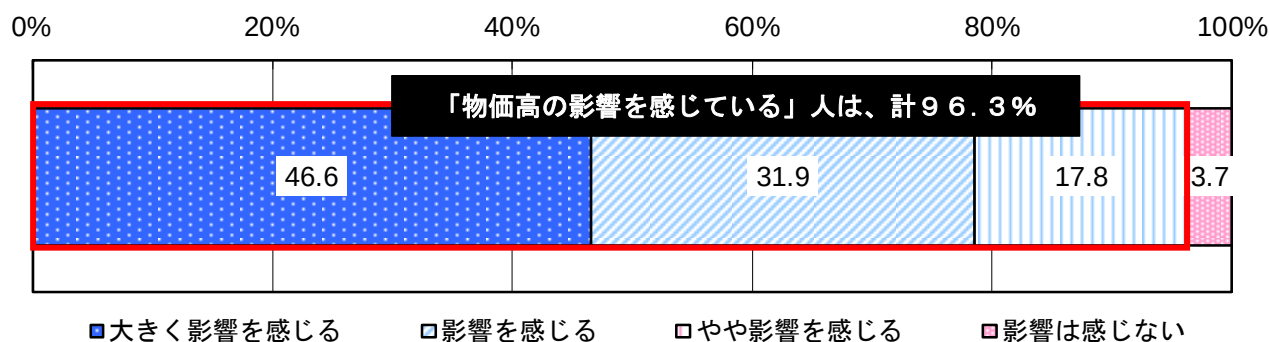
○昨年よりも物価高の影響を感じる費用を聞いたところ、トップは「食料品」（94.2%）で9割を超えました。昨年の調査と比べると「食料品」は73.0%から21.2p t 上がっており、食料品の値上がりが多くの家計に影響を与えていることが伺えます。

○「食料品」のなかで、昨年よりも特に値上がりしたと感じる品目は、「米」（87.9%）、「野菜」（82.6%）、「卵」（53.9%）の順となっており、特に「米」「野菜」の2品目が突出して高い水準となっています。

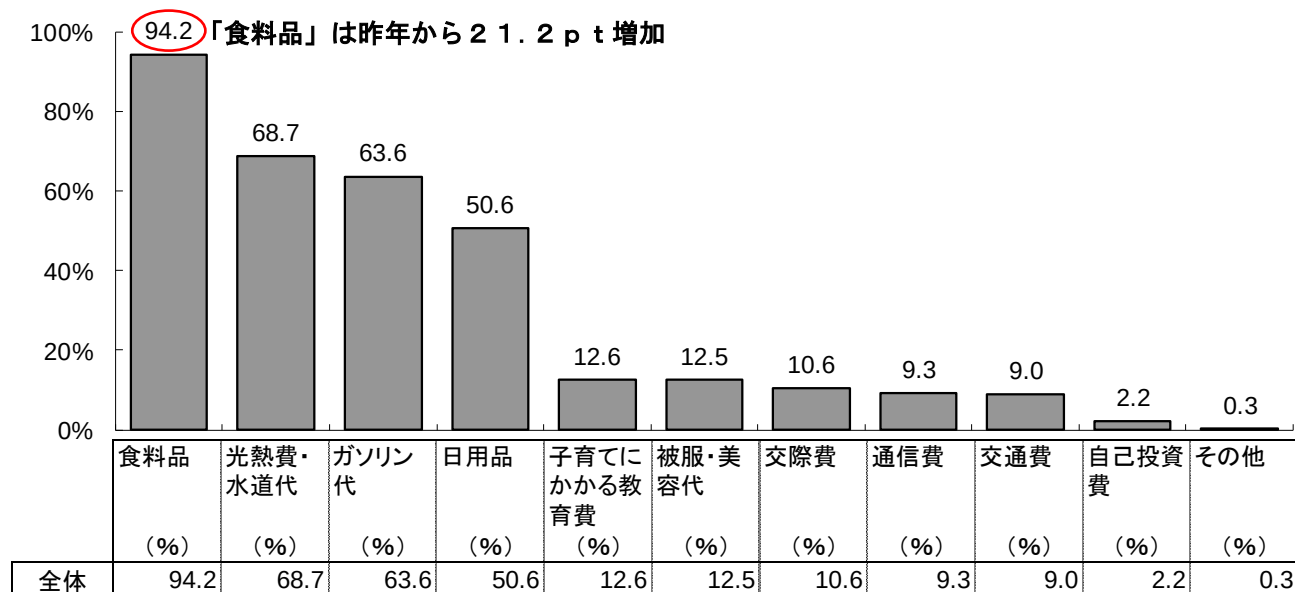
○昨年同時期と比較した支出の増減を聞いたところ、約5割（48.6%）の世帯が「増えた」と回答しました。昨年の37.5%から+11.1p t 増加しており、足もとで支出が一段と増加している様子が伺えます。過年度の推移をみると、2021年は18.9%、2022年は20.5%、2023年・2024年は37.5%で、世帯の支出が「増えた」と回答する人の割合は増加傾向にあります。

○支出が「増えた」理由を聞くと、「物価高騰により生活費が増えているため」（90.2%）が9割を超え、日々の生活に物価高が重くのしかかっていることが分かる結果となり、昨年（83.2%）よりもさらに物価高の影響が高まっている状況です。

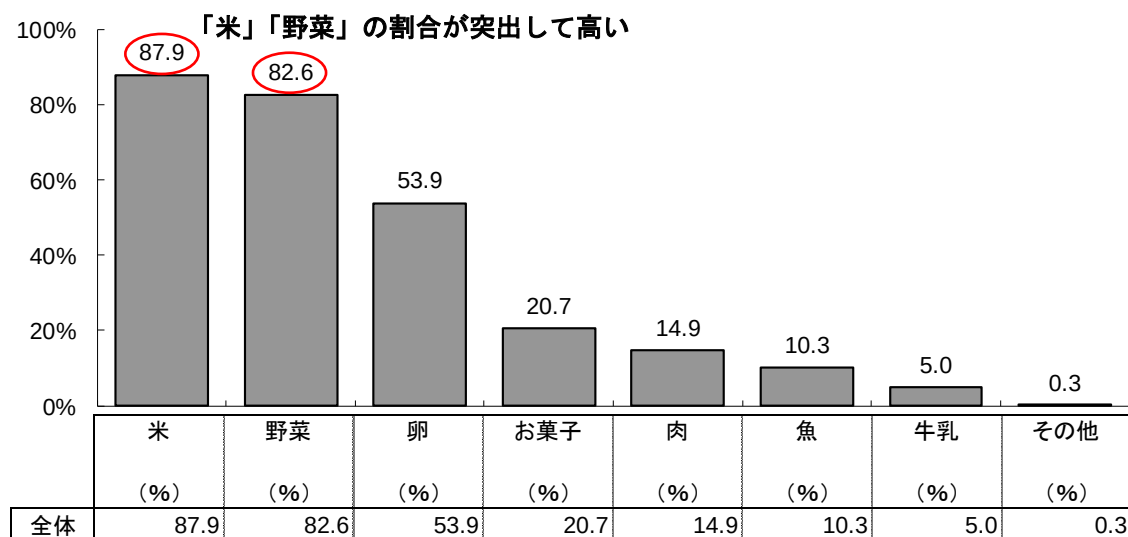
Q. 昨年以上に物価高の影響を感じていますか



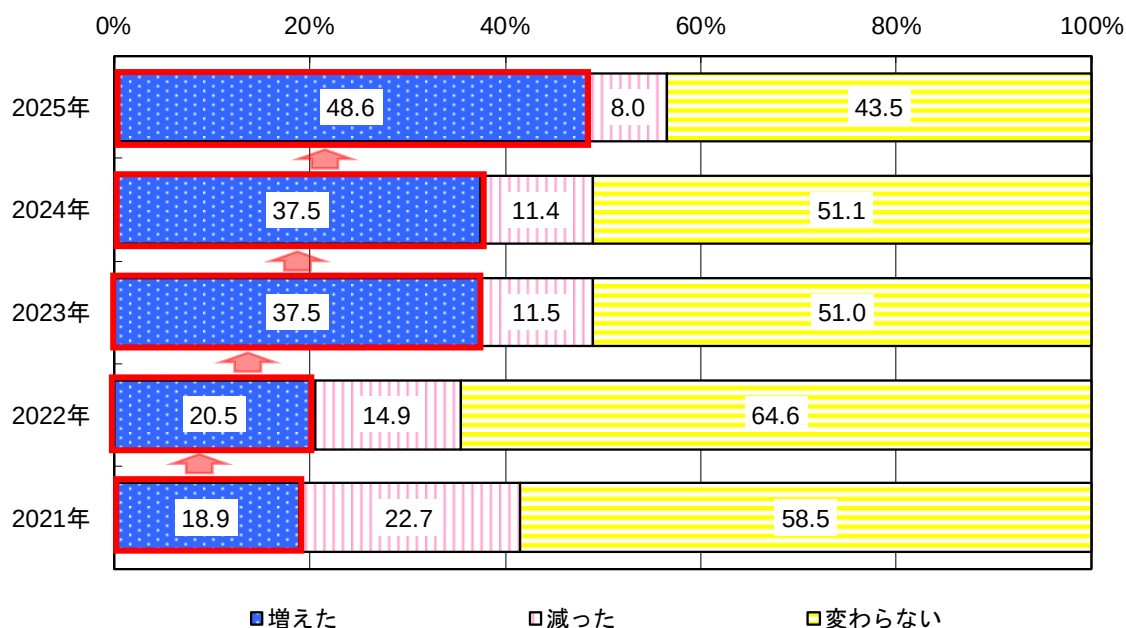
Q. 昨年以上に物価高の影響を感じる費用は何ですか
 (「昨年以上に物価高の影響を感じる」人のみ回答)



Q. 昨年よりも値上がりしたと感じる食品は何ですか
 (「昨年以上に物価高の影響を感じる」人のみ回答)

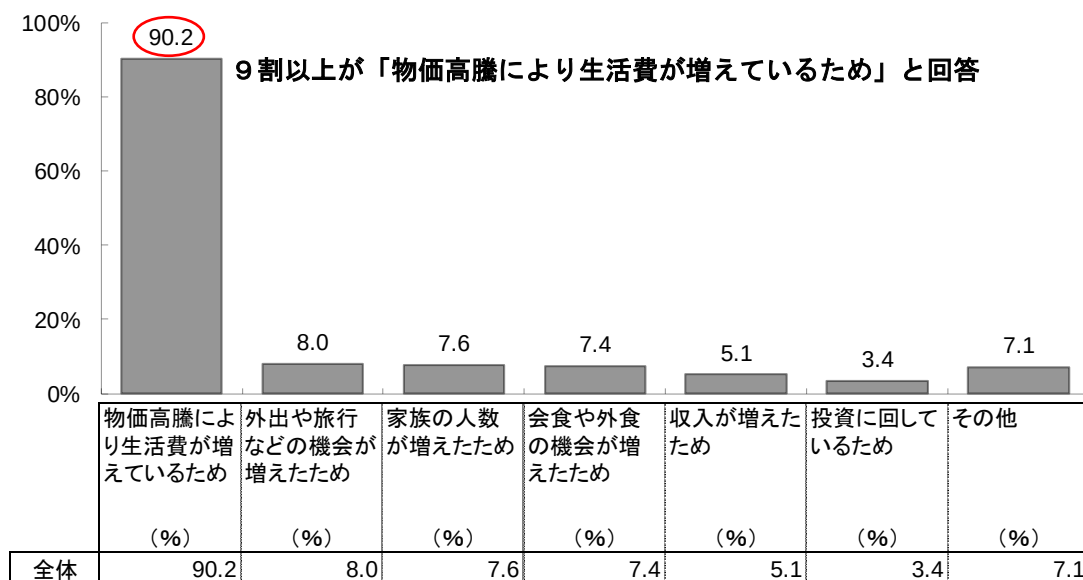


Q. 昨年同時期と比較して、支出に増減はありますか



Q. 世帯の支出が増えた理由は何ですか（複数回答）

（昨年以上に支出が増えた人のみ回答）



～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



昨年よりも物価高の影響を感じるという人は96.3%で、ほぼすべての人が感じているという結果になりました。総務省によると、2024年度の消費者物価指数の対前年の上昇率は、2023年度と同じ+3.0%でした。ただ、生活必需品で、支出に占める割合が高い食料が同+7.4%と、全体の伸びの倍以上かつ平均の賃上げ率を大きく上回る伸びとなったことが家計を圧迫しています。とりわけ主食のコメ（うるち米、コシヒカリを除く）の伸びは同+47.8%と1.5倍、アンケート実施時期の3月に限れば同+92.5%と約2倍に達しています。生鮮野菜も3月は同+22.1%と2割高でした。賃上げの流れが続いているとはいえ、食品価格が下がらないことには暮らし向きは改善しません。特にコメ価格の下落が待たれるところです。

2. GWの予算と過ごし方

（1）GWの予算

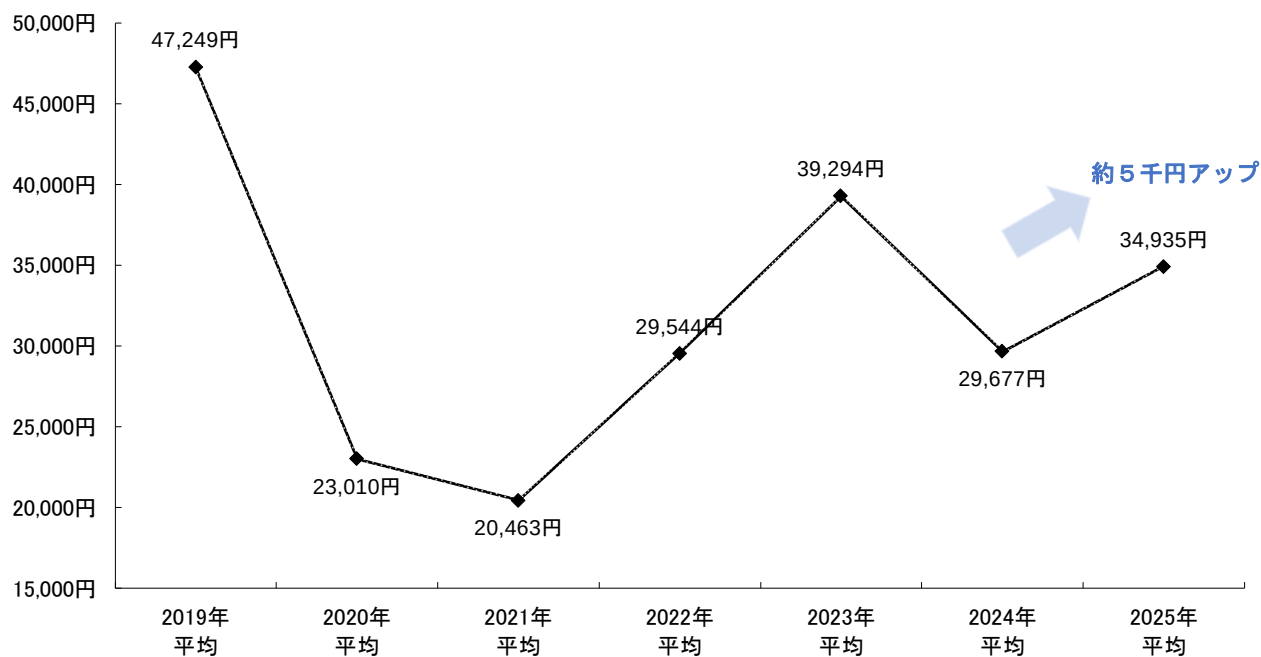
GW予算は昨年から約5千円アップ！理由は「旅行・外出」と「物価高」！

○今年のGW予算について聞いたところ、34,935円と2年ぶりに増加しました。昨年（29,677円）からは、約5千円（5,258円）の増加になります。

○一方で、「昨年よりGWの予算を増やす」と回答した人は5.7%にとどまり、「減らす」と回答した人（21.4%）を大きく下回っています。

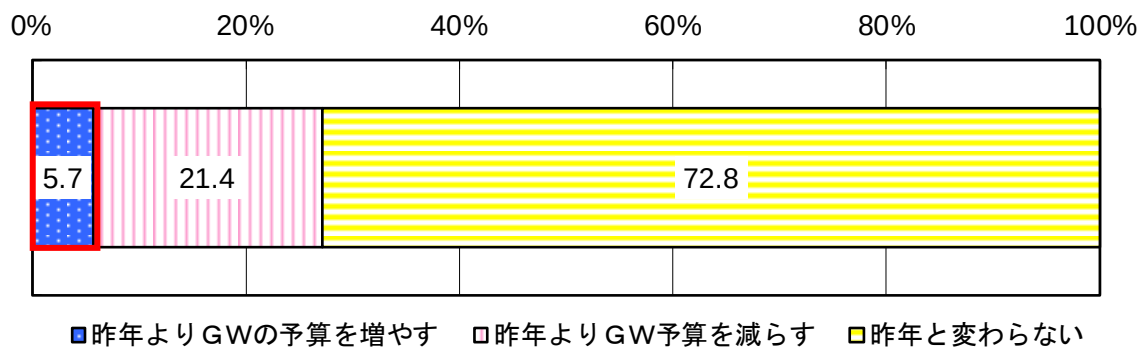
○「GWの予算を増やす」と回答した人の上位の理由をみると、「旅行や外出を計画している」（48.4%）、「物価高の影響」（43.0%）となっており、物価高の影響を受けながらも、旅行や外出にお金をかける人が、全体の予算を引き上げているとみられます。

Q. 今年のGWにいくら使う予定ですか



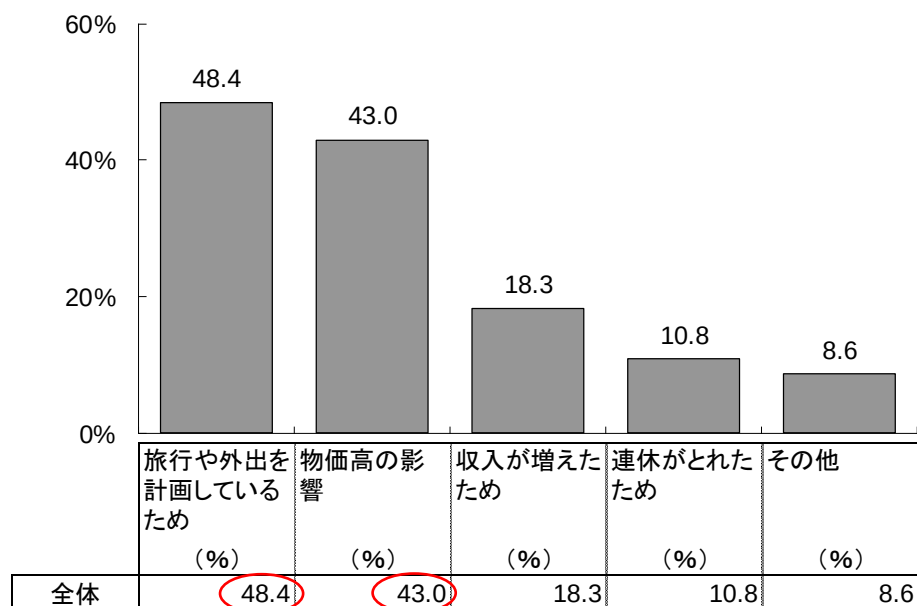
Q. 昨年の予算と比較したGW予算の増減は

平均予算が増加する一方で、予算を「増やす」人は5.7%にとどまる



Q. GW予算を増やす理由は何ですか（複数回答）

（「昨年よりGW予算を増やす」と回答した人のみ）



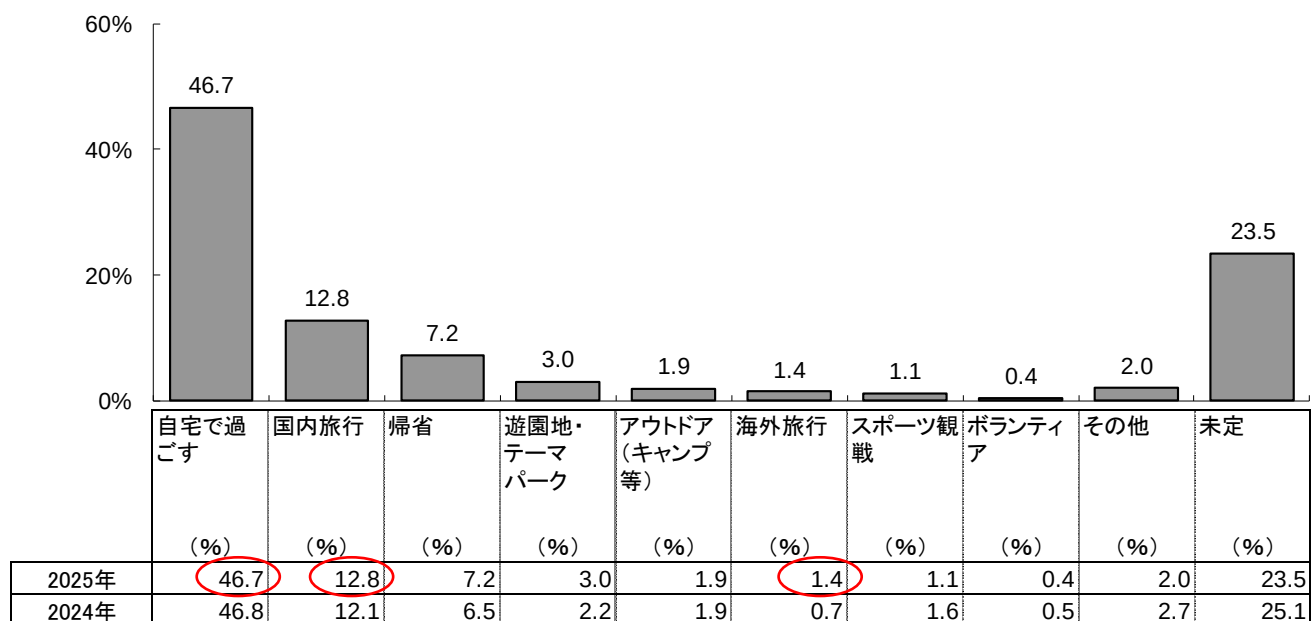
（２）GWの過ごし方

今年のGWは「自宅で過ごす」人が約半数！旅行に出掛ける人が小幅に増加

○今年のGWの過ごし方について聞いたところ、「自宅で過ごす」（４６．７％）が約半数でトップとなりました。

○また、「国内旅行」（１２．８％）は昨年から０．７ｐｔ増加、「海外旅行」（１．４％）も同様に昨年から０．７ｐｔ増加となり、物価高、円安のなかでも、GWに旅行に出掛ける人が小幅ながら増加する結果となりました。

Q. 今年のGWはどのように過ごしますか



～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



GWの過ごし方で、「自宅で過ごす」とした人は46.7%となりました。これは昨年の46.8%と同水準です。旅行に出かける人が増加傾向とは言っても、伸びは微々たるものです。特に海外旅行は昨年の0.7%が1.4%に増えたにすぎません。コロナ禍後、いったんは回復した旅行需要ですが、急速な円安の進行に伴い、海外旅行はすっかり高嶺の花になってしまいました。インバウンドが盛り上がっているのは結構なことです。大都市や観光地ではホテルや外食の値上がりが続いています。都心のラグジュアリーホテルのなかには価格が2倍から3倍に上昇したところもあり、結果として日本人観光客は国内旅行からも締め出される形となっています。

今年の春闘における定期昇給込みの平均賃上げ率は昨年を上回る水準が予想されるなど、悪い材料ばかりではありませんが、食品価格の上昇が家計心理を冷やしている折でもあり、「安・近・短」という休暇の過ごし方は容易に変わりそうもありません。

3. 貯蓄と投資・NISAの利用

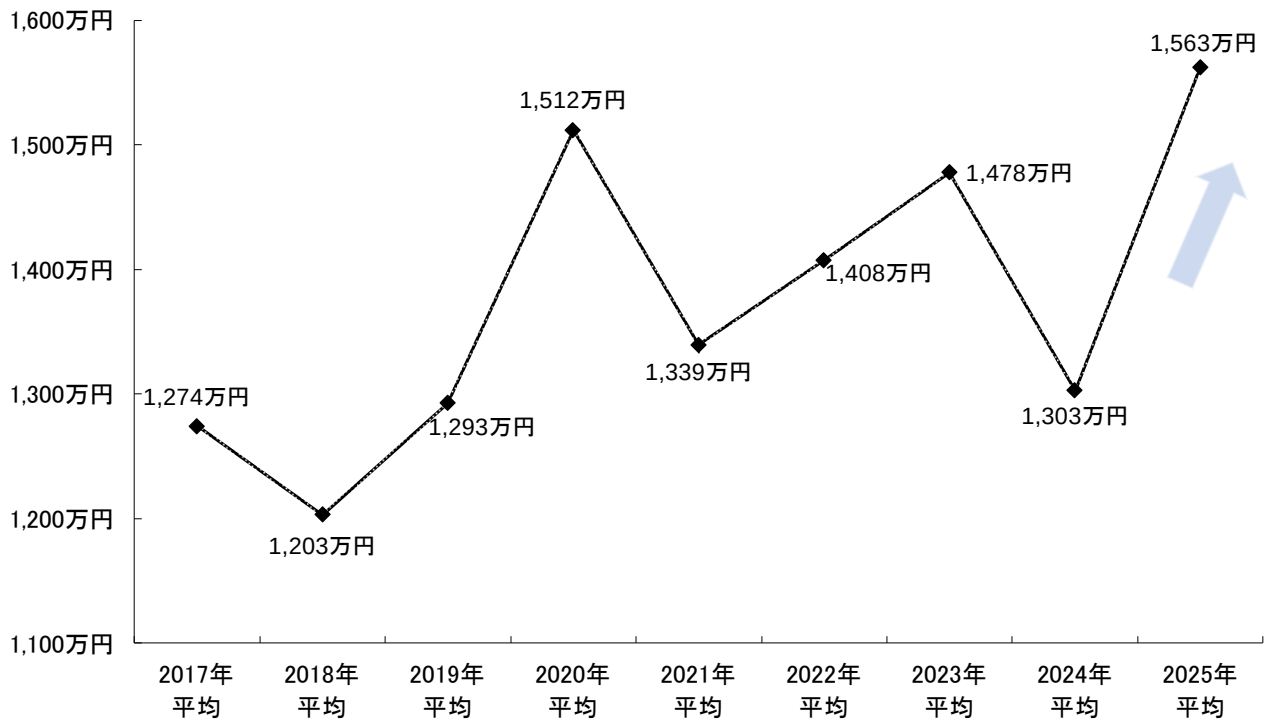
(1) 貯蓄

貯蓄額は2年ぶりの増加。昨年から+260万円の大幅増！

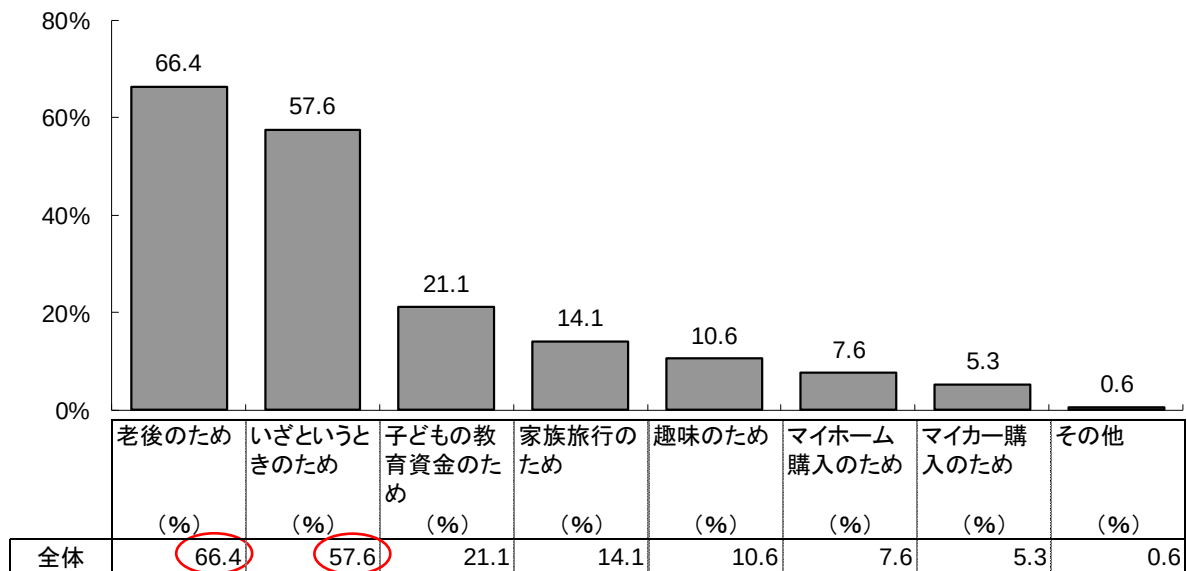
○世帯での貯蓄額（預金、投資等）について聞いたところ、平均は1,563万円となり、2年ぶりに増加しました。昨年（1,303万円）からは260万円増と、大幅に増加しています。賃上げの影響に加え、物価高による消費の抑制（買い控え）の影響があるのかもしれません。

○貯蓄目的について聞いたところ、トップは「老後のため」（66.4%）、次いで「いざという時のため」（57.6%）と、多くの人が先行きが不透明なことに備えたいと回答しました。トランプ政権による景気や金融市場への不確実性の高まりも影響しているのかもしれません。

Q. 世帯での貯蓄額を教えてください



Q. 貯蓄目的を教えてください（複数回答）



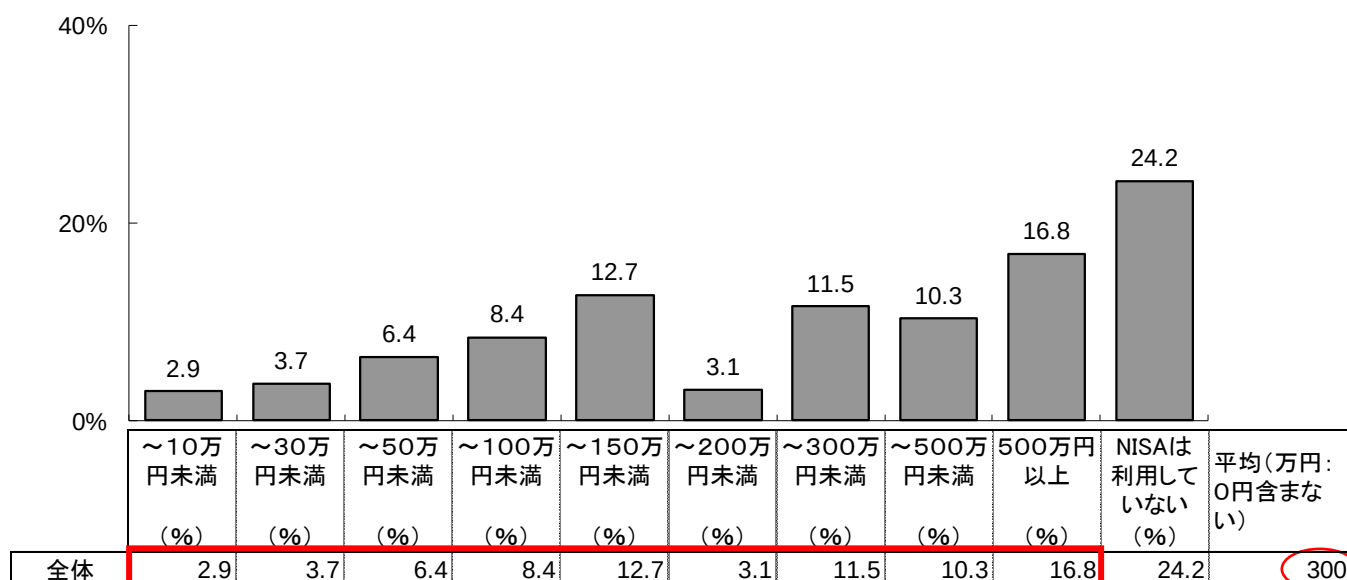
(2) 投資・NISAの利用

「投資をしている人」は3割超！約24%の人がNISAを利用！

○「投資をしている」と回答した人は31.7%で、昨年の26.5%から5.2pt増加しました。「投資をしている」人のうち75.8%の人が「NISAを利用している」と回答しており、全体としては約24%の人がNISAを利用しているという結果になりました。

○「NISAを利用している」と回答した人の平均利用額は約300万円となりました。また、NISAの利用をいつ始めたか聞いたところ、「2022年以降に利用し始めた」と回答した人が45.8%となりました。近年の制度改正を受けてNISAの利用者が増加しており、NISAを通じて投資をしている人が徐々に増加しているようです。

Q. NISAの利用額はいくらですか（「投資をしている」と回答した人に質問）



「投資をしている人」(全体の31.7%)のうち、NISAを利用している人は75.8% (=全体の約24%)

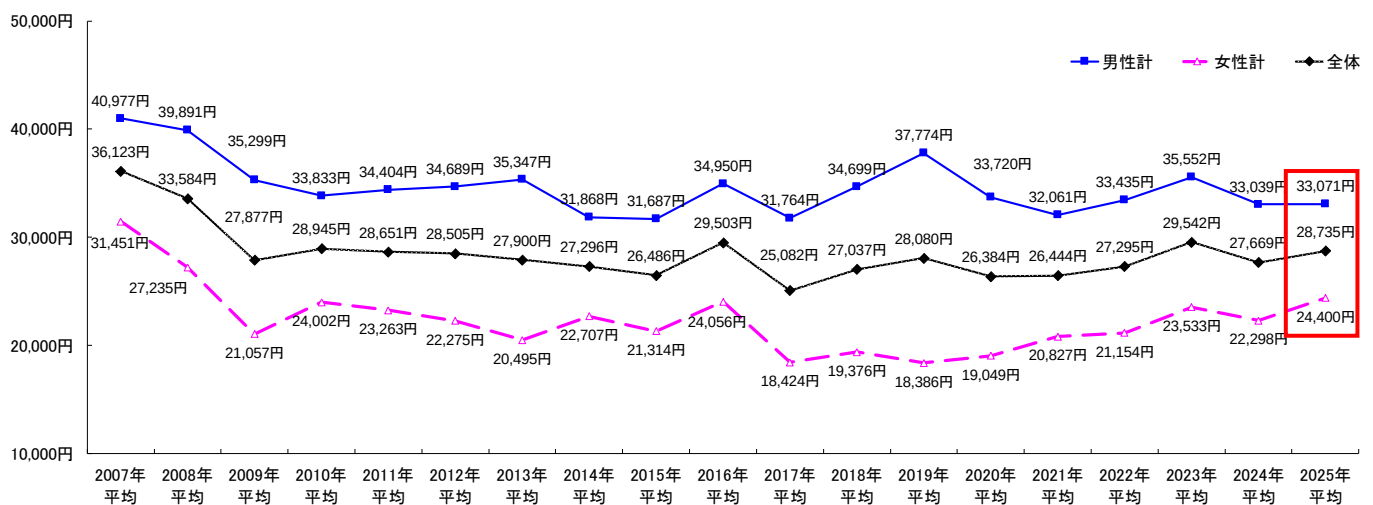
4. 夫のおこづかい

夫のおこづかいは物価が上昇するなかで現状をキープ

○20～50代の人に夫婦のおこづかいの金額（ひと月あたりの平均額）について聞いたところ、夫はほぼ横ばい、妻は昨年よりも増加しました。

○夫のおこづかいは、33,071円と、昨年（33,039円）からほぼ横ばい（32円増加）となりました。昨年は▲7.1%減少しましたが、今年は何とか現状をキープした格好です。一方で、物価上昇の影響で、「実質的なおこづかい」は減っているとみられ、お父さんにとっては厳しい状況が続いていると言えそうです。

Q. おこづかいの金額について教えてください



～エコノミスト 木村 彩月はこちら見る！～

■明治安田総合研究所 経済調査部 エコノミスト 木村 彩月



貯蓄額は2017年以降で最高額となりました。新NISAのスタートが家計の投資意欲を高めていることに加え、約20年ぶりに金利ある世界が戻ってきたことも、貯めたい気持ちをさらに後押ししているようです。

貯蓄目的として最も回答の多かった老後や不測の備えは、旅行やマイカーなど費用が明確な使い道と違って、どれくらい貯めればよいのかが判断しづらく、貯蓄が積み上がりやすい面もあるように思います。人生100年時代というプレッシャーが家計の貯蓄を加速させているのかもしれません。

投資の世界では安定的なリターンを上げる方法として「分散」が大事とよく言われます。暮らしにおいても、将来の安心だけでなく、おこづかいのような今のご褒美も大切です。お金の使い時の「分散」も人生の満足度を上げることにつながるのではないのでしょうか。

5. 世帯の収入

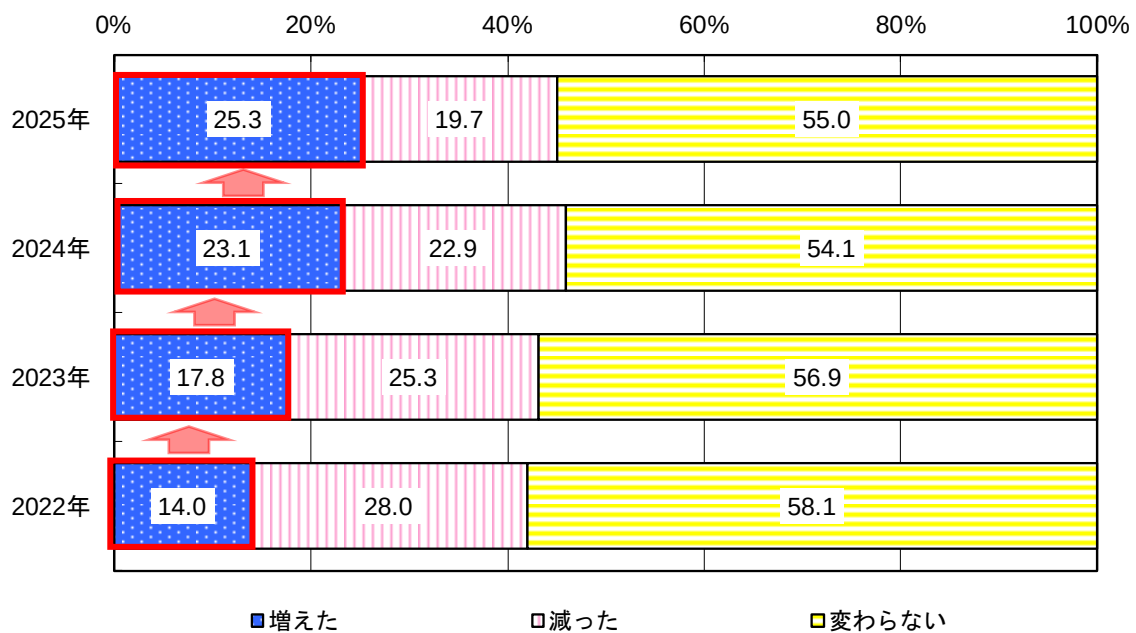
世帯収入が増えたと回答した人は、3年連続上昇！

○20～50代の人に昨年同時期と比較した世帯収入の増減を聞いたところ、25.3%の世帯が「増えた」と回答し、昨年（23.1%）から2.2p tアップし、3年連続で上昇しました。

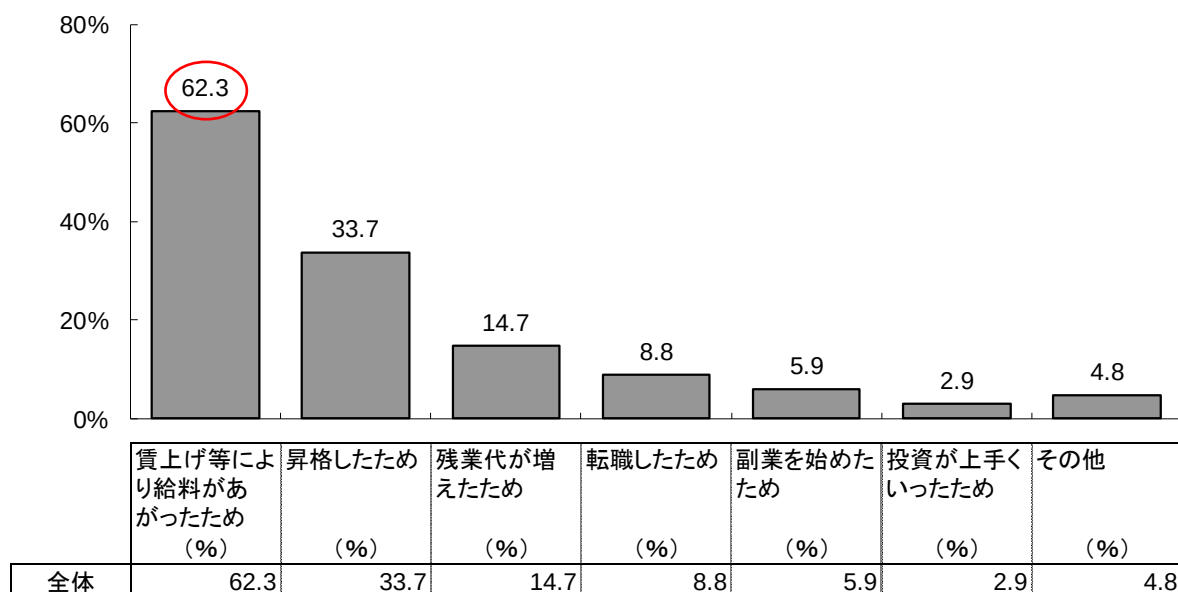
○世帯収入が増えた理由を聞いたところ、昨年に引き続き「賃上げ等により給料が上がったため」が62.3%でトップ、昨年より6.1p t上昇しました。

○今後は、物価上昇が続くなかで、「賃上げが継続していくのか」「物価上昇を上回る賃上げとなるか」がポイントになるとみられます。

Q. 昨年同時期と比較して、収入に増減はありますか（20～50代のみ回答）



Q. 昨年同時期と比較して、世帯年収が「増えた」と回答した理由を教えてください
(「昨年同時期より支出が増えた」人かつ20～50代のみ回答)



～エコノミスト 木村 彩月はこちら見る！～

■明治安田総合研究所 経済調査部 エコノミスト 木村 彩月



昨年は世帯収入が増えた人と減った人の割合が拮抗していましたが、今年は増えた人が減った人をしっかりと上回る結果となりました。増えた理由からは、賃上げの寄与が大きかったことが確認できます。

そうしたなか、昨年と変わらなかったのは、世帯年収が増えたと回答した割合が20代・30代で高く、40代・50代で低かったことです。中高年層は転職による人材の流出リスクが比較的低いため、企業は人材獲得競争が激化している若い世代を優先して引き上げていると考えられます。もっとも、賃上げが若い世代中心となり、中高年世代が抑制されるとなると、若い世代にとっても先々の給与アップに期待が持てず、結果的に従業員全体のモチベーション低下を招く恐れがあります。人材の需給だけでなく、成果や貢献度に則った賃上げが実現してほしいところです。

年代別にみれば、中高年層は世帯当たりの支出が最も大きくなる世代でもあります。賃上げ率やその持続性という点に加え、賃上げの波が中高年層にも広がっていくかも世帯収入アップへのポイントと言えます。

6. キャッシュレス決済

スマホ派が現金派を逆転！キャッシュレス化が進展

○最も多く利用する決済手段について聞いたところ、「クレジットカード」（42.0%）がトップで、次いで「スマホ決済」（28.1%）、「現金」（25.6%）と、初めて「スマホ決済」が「現金」を上回る結果となりました。キャッシュレス決済の合計は全体の7割以上（74.3%）となり、多くの人がキャッシュレス決済を利用していることがわかりました。

○キャッシュレス決済は、小銭を出し入れする必要が無いなどの利便性や、ポイントが付くことが魅力ですが、今後も若い世代を中心にキャッシュレス化が進展するとみられます。

Q. 最も多く利用する決済手段について教えてください

